# 十三　紅もつけずに　紅の研究に打ちこんだ
## 日本初の女性化学者　黒田チカ（一八八四～一九六八）

女子大生―日本じゅうに何万人いることでしょう。今でこそ、女子の大学生など、めずらしくもありません。しかし、つい八十年ほど前までは、

「女が大学に入るなんて、とんでもない。」

と言われていたのです。

日本初の女性化学者、黒田チカは、そんな時代に、東北帝国大学に入った初の女子帝大生の一人でした。

黒田チカは、明治十七年（一八八四）、今の佐賀市松原町で、七人兄弟の三女として生まれました。黒田家は、元さむらいだった父親とやさしい母親、仲のよい兄弟のあたたかい家庭でした。小さいころのチカは、おとなしい子供でしたが、勉強にはとてもきょうみをもっていました。まだ、五歳のころから、四年生の姉の後について、毎日進んで学校へ行き、目をかがやかせて授業を聞いていたそうです。

学校での勉強だけでなく、琴や三味線なども大好きで、姉のけいこについていき、姉より早くおぼえてしまうほどでした。こうして、見るもの聞くものすべてにきょうみをもち、学ぶことのおもしろさを知ってい

たチカは、はば広く学問を身につけていく基礎ができていたのです。

しかし、末むすめとしてあまやかされて育ったこともあり、さびしがり屋でおく病な面も持っていました。十四歳で、佐賀師範学校の女子部に入学しましたが、寄宿舎での生活になじめず、夕方になると、家の方を向いてなみだぐむこともあったそうです。

また、理科実験で、毒性の強いきけんな薬品を使うことがありましたが、チカは、塩素ガスや一酸化炭素などをあつかうたびにたいへんこわがりました。後かたづけなどの時、鼻をつまんで息を止めてにげだすこともあったそうです。そのおく病ぶりを知っている同級生たちは、チカが化学者になったことを、不思議に思ったほどでした。

しかし、何事にもきょうみをもち、吸収していくチカの学ぶ力はすばらしく、教えた先生たちは、さらに上の学校で学ぶことをすすめました。でも、このころは「女子は、高い教育を受ける必要はない。花よめしゅ業でもしておけば十分」と思われていました。しかし、チカの父、平八は、たいへん進歩的な考えをもった人でした。

「これからの人は、まず学問が大事だ。」

と、チカの進学を喜んでみとめたのです。

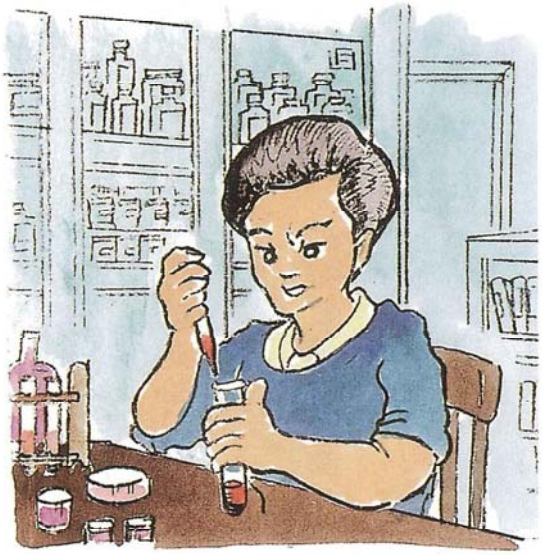
こうして、東京女子高等師範学校、ついには、女子の入学を初めてゆるした東北帝国大学にはじめて女子大生の一人と

して入学するのでした。はじめての女子大生は三人いました。三人が、町を歩くと、人々からものめずらしげにじろじろ見られました。新聞にも書きたてられ、世間からは、「なまいきだ」「女を入れると大学の品位が下がる」「がまんがならぬ」など、きびしい言葉もあびせられました。しかし、チカは、世間の目など気にしませんでした。何より大学での勉強が楽しかったからです。大学でチカは、理科、なかでも化学の道を選びます。すぐれた先生方にもめぐまれ、チカは、紫など天然の色素の研究を行いました。

一つの研究の結果が出るには、半年、一年、それ以上かかることもありました。思ったような結果が出ずに、いらいらしたり、実験が失敗し、たくさんの貴重な原料をだいなしにしてしまったりしたこともありました。夜中まで研究室にこもる日も何日も続きました。そんな努力の末、紫の研究で成果をあげたチカは、大学を卒業し、女性で日本最初の理学士となりました。

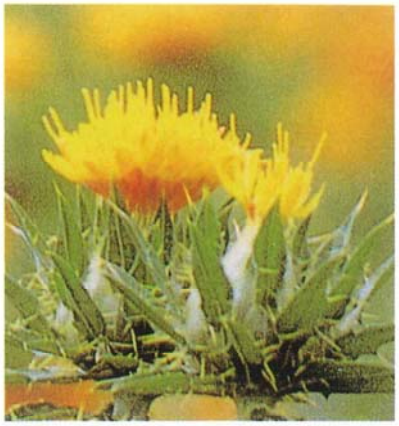
その後、イギリスにも留学し、さらに研究に打ちこみました。次に試みたのが、紅の研究でした。口紅などの原料となる美しい色をした紅。しかし、紅は、とても高価なもので、実験もたいへんむずかしく、失敗が続きました。それでも、五年の年月をかけて実験を成功させ、チカは、理学博士の学位を受けます。女性では、日本で二番目、化学関係では、第一号の理学博士でした。

「紅の博士」として有名になったチカでしたが、いつも同じ布製のバッグに地味な服そうで、口紅も、おしろいも一度もつけることがな



実験に熱中するチカ

かったそうです。それほど、研究に熱中していたのです。研究室と家を行き来するだけの生活でした。家に着くのは、夜中の二時、三時という日もあり、研究する時間がたりませんでした。大学では、先生として、化学を教え、化学の道を進もうとする後はいのために、講演を行うなどの努力もおしみませんでした。でも講演に向かう電車の中では、すいみん不足をおぎなうために、よくねむり、駅に着くと、目をさまして会場に向かっていたそうです。



紅花

戦後の物不足の中、苦心して集めたたまねぎの皮で始めた研究では、その後、高血圧の薬を発見することにもなりました。

昭和四十三年(一九六八)、八十四歳でこの世を去るまで、チカは、一生を天然色素の研究と、化学者の教育に身をささげたのでした。やりたいことを一生けんめいがんばった人生でした。

「すべてのものに親しみをもって向かえば、必ずそのものが教えてくれて道は開けます。」

チカが、大好きだった言葉です。いろいろなことに目を向けてみましょう。そこから、きっと、自分の一生をかけてやりたいことが見つかるのではないでしょうか。化学者チカのように…。